

坊さん医者奮戦記

(日蓮宗現代宗教研究所嘱託・福岡県大牟田市南正寺住職)

牟田口義隆

私が山口大学医学部在学中に師父を亡くし、南正寺の住職を継承して二十年が過ぎました。その間に十年ばかり内科勤務医を経験した後、大牟田セントラル・クリニックという内科診療所を開設して十年目となりました。大牟田セントラル・クリニックは、平成十年に医療法人化して医療法人光輪会大牟田セントラル・クリニックとなり、デイサービスセンター花の里をはじめ、二カ所のグループホームなど五つの介護サービス事業に取り組み、職員も三十人を数えています。

日蓮宗南正寺は、三百七十年の歴史を持つ大牟田市の中堅寺院であり、石炭産業の斜陽化で大牟田市の人口は減少しつつあるが、住職の私と二人のお弟子さんとで、日々の御回向や御法事、そして近隣の御寺院の協力のもと年間の行事を遂行しております。

年間で最大の行事は正月の鬼子母神様の初大祭で、水行式のあと加持祈祷を行い、境内では熊手の展示販売やお焚き上げが行われ、数百人の檀信徒で賑わいます。

この度、生命倫理の問題に取り組むべく日蓮宗現代宗教研究所の嘱託を拝命した契機に、住職が医療と介護に携わる当寺院についてご紹介させていただきます。

大牟田セントラル・クリニックは南正寺から車で五分のところであり、その名称は大牟田市街の中心に位置すること由来します。五階建てのビルの二階全フロア約六十坪を借りて開設された、ビルクリニックです。胃カメラ、大腸カメラ、腹部エコー、胃透視、大腸透視など消化器の検査ができる機器が設備されています。ここには介護保険

のケアプランを作成する事業所である介護センター総健が併設され、ケアマネージャーでもある私は、介護センター総健の管理者も兼任しています。毎月五十件のケアプランを作成しています。

平成十二年、介護保険の発足とともに開設されたデイサービスセンター花の里、ヘルパーステーション、グループホーム総健、福祉用具貸与事業部は南正寺から歩いて三分で、三百坪の敷地に鉄骨二階建ての建物で、以前は檀家さんが学習塾を経営しておられ、それを購入して増改築したものです。

あと一箇所、グループホームフェニックス苑が、南正寺から車で五分のところ、平成十三年開設されております。ここは約百五十坪の敷地に鉄骨二階建ての建物があり、定員九人の要介護者が生活する施設です。

三十人の職員と力を合わせて運営しており、厳しい経営のなかでもお陰様で毎年経常収支は黒字で推移しています。

さて、住職という立場から社会の動向を見ますと、この二十年間の変化は寺院にとって大変厳しいものがあります。核家族化による檀家制度の崩壊やお葬式の形態の変化や、宗教に何も求めない世代の登場などの世相が短い期間に浸透しつつあります。

沢山の檀家さんのある寺以外、その経営は今後ますます厳しくなると予想されます。結果として私のところに、兼業する寺院も増えてくるのではないかと思われまます。

今までに、種々な職業を兼業されている御住職を知っております。学校の教員、学習塾の経営者、公務員、幼稚園の経営者などが一般的ですが、近隣の日蓮宗寺院で税理士事務所を経営しておられる御住職もおられます。

私の携わっている医療と介護という仕事は、人間の生死に直接かかわり、営利を目的とはしません。勿論、診療報酬や介護報酬がなければ経営できませんが、報酬さえあればできるという仕事ではありません。己の使命感や利用者の笑顔が、仕事の大きな支えとなっています。六波羅蜜の布施、精進、禪定、忍辱、持戒、智慧などが気持ちの中に

大牟田セントラル・クリニック（写真中央ビル二階）



グループホーム・フェニックス苑



あつてこそ、成し遂げられる仕事と考えています。

そのような意味では、住職と兼務する甲斐があつたと思います。患者さんや介護の利用者の方々に直接に法を説く機会はありませんが、仏教の規範であります六波羅蜜を意識した仕事には自ずから心がこもり、心を打つものだと考えます。

以前、現代宗教研究所のビハーク講座で宗教法人の介護事業への参入をご提案させていただきましたが、それから実際に実践してみようことは、簡単に片手間ではできないということです。介護事業所を立ち上げて失敗した、という話もよく耳にします。

しかし、真剣に取り組めば、寺院の有する檀信徒のネットワークは大きな推進力になります。他の事業所でネットワークを持つているのは生活協同組合とか農協などがありますが、いち早く介護事業に参入しています。

介護事業に取り組むには、介護保険に精通しておかねばなりません。そして宗教法人定款の変更やNPO法人の設立、具体的な事業所の設置、人員の整備、県の介護保険課への申請と認可などの手続きを踏まねばなりません。簡単にはいきませんが、何か事業を兼務するとすれば、檀信徒のネットワークを有する事、法人格を有する事、境内地など活用できる土地と建物がある事など、有利な点があると考えられます。そして何より、仏教の、日蓮宗の精神を仕事のなかに生かすことが出来ると考えます。私はこのことを、間接的布教と考えています。患者さんや利用者の方々が、受けた真心に感銘し、それが仏教の精神であることが分かれば、その教えに誘われるものと考えます。

私は医者と坊さんとどちらが本業ですかと聞かれますが、どちらも本業ですといつも答えます。どちらも、正面から取り組まねば成し遂げられないということです。

今後も、住職でありつつ医療と介護の仕事に従事してまいる所存です。平成十六年には、デイサービスセンターに隣接して四階建て二十四戸の高齢者専用マンションが完成します。



デイサービスの皆さん



一階デイサービスセンター花の里
二階グループホームの総建

今後、介護事業に取り組むことを考えておられる御寺院があれば、いつでもご相談にのります。「電話〇九四四―五七―〇〇六四番」もう既に、境内地にグループホームを開設された御寺院が日蓮宗新聞で紹介されております。是非、連絡を取り合つて情報を交換しあい、協力しあつて行きたいと思つています。私たちの総健グループを近隣のお寺院は知つていただき、活用し、引き立てていただきたいと思います。介護によるお寺のネットワークを構築することは、来るべき時代を乗り切る寺院の、そして宗門の力になると考えています。